

環境教育

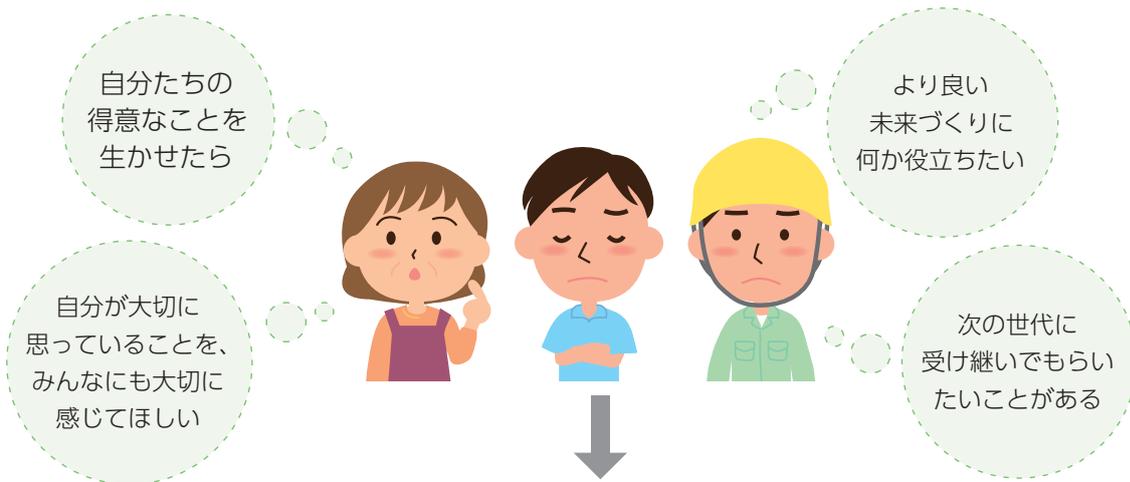
協働授業づくりハンドブック

～ 事業者・NPO・高等教育機関・行政等の皆さんへ～

学校との連携・協働は活動を広げるチャンス！



当てはまること、ありませんか？



こんな時……

未来を担う子どもたちの“育ち”に関わると……



その一番の近道は、学校と一緒にやること！

学校も、あなたのチカラを待っています！

平成29年改訂の新学習指導要領への移行に伴って、学校では、子どもの生きる力を高めるため、専門家・地域の人々と関わったり、学校の中だけではできない体験をしたりすることのできる「世の中と結びついた授業」へのニーズが一層高まっています。



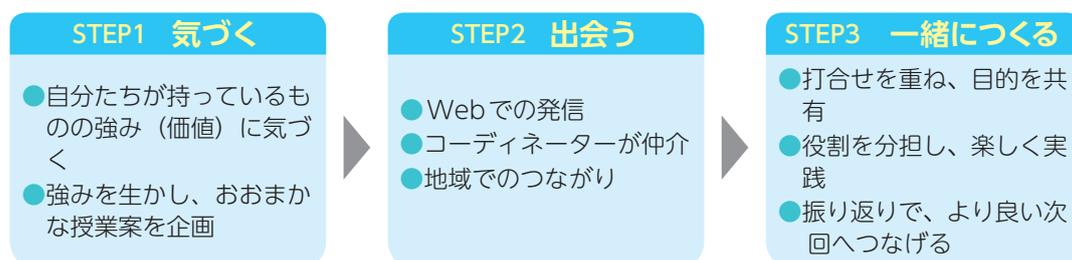
本冊子は、事業者、NPO、高等教育機関、行政等の皆さんに、皆さんが持っている知識・技術や経験、あるいは施設などの強み（価値）に気づき、それを生かして学校（幼保・小中高）教育に生かすことの素晴らしさを知っていただきたいとの思いを込めて作成しました。

第1章では、学校との出会いから実践までの実例を紹介しながら、連携・協働して一緒に授業をつくり上げること（「協働授業づくり」）でどんな成果が得られたかや、「こうすればうまくいくんだ」というポイントをお伝えします。

第2章では、皆さんの「やってみたい」という思いをカタチにし実践へつなげるため、強みに気づいて授業案を企画し、そして様々な制約のある学校とスムーズに連携・協働していくことをサポートします。

学校も、皆さんの力を必要としています。さあ、学校と一緒に「協働授業づくり」に取り組んでみませんか？

～協働授業づくり全体の流れ～



目次

第1章 事例から見えてくる！協働授業づくりの成果やポイント ……………	3
事例① NPO×小学校4年 リサイクル体験を通して伝える、製品の環境影響と「使い切り」の大切さ……………	3
事例② 事業者×中学校1年 まちづくりを題材に「人も地球も生きものも守る私」への行動を促進……………	5
事例③ 専門学校×幼稚園年長 動物園への遠足前に、生きものを尊ぶ心を育む……………	7
事例④ 行政×小学校5年 ホテルを通して、身近な川への負荷の少ない生活を考える……………	9
事例⑤ 行政→小学校 講座情報を時系列で整理・一元化して学習を支援……………	11
第2章 協働授業づくりに挑戦してみましょう ……………	13
STEP 1 気づく ～自らの事業・活動の社会的意義や強みを再認識～……………	14
STEP 2 出会う ～自分たちのできることを発信～……………	15
STEP 3 一緒につくる ～事前打合せで目的を共有し、効果的な授業を実施～……………	16
ワークシート1 ～自らの事業・活動の強みに気づく～【授業企画の準備用】……………	17
ワークシート2 ～効果的な授業を行う～【学校との打合せ用】……………	18

第1章 | 事例から見えてくる! 協働授業づくりの成果やポイント

事業者やNPO等の持つ技術や経験、専門知識を生かして学校のニーズに応えた、魅力的な授業を紹介します。

事例 NPO × 小学校 4年 テーマ▶ごみ・3R 時間▶45分×2時限

事例

1

リサイクル体験を通して伝える、 製品の環境影響と「使い切り」の大切さ

循環型社会の実現に向けごみ減量やリサイクル推進に取り組む NPO 法人中部リサイクル運動市民の会

「牛乳パックのリサイクルはがきづくり体験」に、森林伐採の環境影響や3R（リデュース・リユース・リサイクル）についての学習を組み合わせ、あるものを大切にして「使い切る」ことがごみ減量や環境負荷低減につながることを伝えました。



授業実現までの流れ

NPO

小学校

3Rや「使い切り」の大切さを知ってもらいたい。

ニーズ

思い出に残る体験学習を行いたい。

団体ウェブサイトを出前授業をPR

体験を生かすため、説明を加えることを提案

「リサイクルはがきづくり体験」の講師依頼
(環境学習コーディネーター (p.15参照) 経由)

「体験をより深い学びにつなげられるのは効果的！」と授業時間を拡大

打合せ (目的の共有、ニーズの把握、資料の確認)



事前学習を実施してもらうと、
子どもたちの集中力が違ってきます。

円滑な進行のため班分けを依頼

打合せで分かりやすい資料を見て安心。要望も十分に受け取り入れられました。



事前学習の実施



学校の潜在的
ニーズにも応える
「座学+体験」
授業が実現!



■ 授業内容 総合的な学習の時間（年間テーマ「環境」）で実施

座学	紙のリサイクル工程と森林伐採の環境影響を学び、3Rに結びつける	45分
体験	牛乳パックを使ったリサイクルはがきづくり（紙すきなど）	45分
まとめ	環境負荷低減のため自分にできることを考える	

関連する
教科・単元等

- 4年社会「住みよいくらしをつくる」
- 4年総合的な学習の時間「ごみのはなし」



子どもの生活に落とし込んだ言葉を使った説明を心掛けています。行動につなげやすくなるよう、児童の生活と地域の課題とを関連づけるようにしています。



ポイント

体験を発展させて、身近なところで学びに結びつけてもらえて感謝！



NPO

- 学校だけではできない部分で、団体に培った知識・経験を生かして、教育に貢献できた。
- 循環型社会の実現に向け自分に何ができるかを、子どもたちが考える機会となった。
- 子どもを通じ、親世代にも3Rを知ってもらいきっかけづくりができた。



成果

小学校

- 経験に裏付けられた授業と児童自ら牛乳パックをリサイクルする体験との相乗効果で、子どもたちの記憶に刻まれる深い学びを得た。
- 「ごみの行方が気になる」、「他にどんなものがリサイクルされているか知りたい」など、自分から探求しようとする主体的な学びにつながった。



アドバイス ～さらに魅力的な授業～



NPO

学校と講師側で「次代の担い手を育てる」という大きな目的を共有しておく、イベント的な形だけの出前授業で終わらず、気づき、考え、行動することを促す一連の授業になっていくのではないのでしょうか。



事例

2

まちづくりを題材に「人も地球も生きものも守る私」への行動を促進

公共事業でまちづくりに携わる建設業者 株式会社山田組

公共事業において環境への影響を減らす技術のほか、路面電車やアニマル・パス（動物の通り道の確保）などを取り入れた国内外の先進的なまちづくりの事例を授業で紹介。環境にやさしい「まちのあり方」を学ぶ中で、人も地球も生きものも守るために自分に何ができるかを考える機会を提供しました。



授業実現までの流れ

事業者

中学校

人も地球も生きものも守るために、まちづくりを「自分のこと」として捉え、身近なところから行動するきっかけづくりをしたい。

ニーズ

環境の大切さと、それを守ることを考えていくきっかけづくりとして、地域や世界の具体的な実例から、様々な視点を知ってほしい。

EPOC[※]環境教育講座に出前授業を登録、ウェブサイトで発信

配布資料や、当日の授業の流れの分かる資料を作成

学校の求めていることに合致する講座をウェブサイトで見つけ、依頼

打合せ（目的の共有、ニーズの把握、資料の確認）



授業を任された以上、学校にメリットを残せるかが課題。学校が求めるものと合わなければ、「これもぜひ話しておきたい!」というこだわりも捨てます。

打合せでどこに主眼を置くかが確認でき、安心感が増しました。



示唆に富む
双方向型の
授業が実現!



■ 授業内容 総合的な学習の時間（年間テーマ「環境」）の取りかかりとして実施

座学	写真を多用しクイズも交えながら、現在の地球環境問題や公共事業における環境負荷低減の取組、欧州の先進的な取組について紹介	50分
まとめ	感想や自分たちにできる環境を守る行動をワークシートに記入	

関連する
教科・単元等

- 1年 総合的な学習の時間「環境」
個別調べ学習発表会（2学期）
校外学習「科学技術と環境」・班別調べ学習と紙面発表（3学期）
- 3年 総合的な学習の時間「国際」



「地球環境問題は自分たちが当事者。だから、自分たちで調べて、できることから始めよう！明るく前向きにね。」と伝えていきます。



ワークシートやクイズ、作業着やヘルメットといった小道具など、生徒を惹きつける工夫に、私たちも授業づくりの参考になりました。



事業者

- まちづくりの事例を通して、毎日の生活と密接に関わる地球環境問題について気づき、何ができるかを考えるきっかけを提供できた。



中学校

- 国内外の実例から様々な見方や考え方に触れ、今後の調べ学習につながる課題意識が刺激される機会となった。
- 地球規模の環境課題と日々の生活との関わりを実感し、当事者意識を持って今後の探求に取り組むきっかけづくりができた。



アドバイス ～さらに魅力的な授業へ～

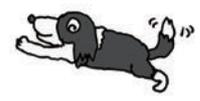


事業者

わずか1時間足らずですが、何かしらの刺激だけでも子どもたちの心に残したいという思いを持って授業に臨んでいます。

写真提供：名古屋市立黄金中学校

※ EPOC（環境パートナーシップ・CLUB）
中部地区の企業約280社などで構成する団体で、企業が環境面で培ってきた技術などを生かした講座を行っている。

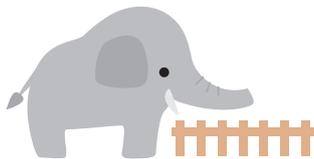


3

動物園への遠足前に、生きものを尊ぶ心を育む

野生生物保護や自然環境保全の専門コースがある 名古屋コミュニケーションアート専門学校

動物園への遠足の事前学習として、動物の違いを体感できるプログラムを実施。専門学校の先生と学生が講師となって、写真や模型を活用したり、体を動かす工夫をしたりと、楽しみながら学べる授業を行いました。園児が興味や関心を持って動物を観察できる、充実した遠足につながりました。



授業実現までの流れ

専門学校

幼稚園

- 子どもたちに生物多様性とその重要性を知ってもらい、生きものを守ってほしい。
- 学生の成長の機会を確保したい。

ニーズ

家族で動物園に行くのとは一味違う、興味・関心を持って動物を観察できる遠足にしたい。

野生生物保護や、自然環境保全分野の専攻コースを開講

学生の実習として実施することを提案

遠足前の事前学習の講師を依頼

(環境学習コーディネーター (p.15参照) 経由)

打合せ (目的の共有、ニーズの把握、会場下見)



打合せで園の先生が示した興味が引き金となり、今回のアイデアを思いつきました。

身近な材料でゾウの手触りやフンの重さを再現するなど、園児目線でゾウを体感できる模型を準備

どんな授業か分からないと不安ですが、顔を合わせて打合せしたことで、むしろ楽しみが先行しました。



当日の補助体制の割振り



園児が楽しく学べる
体感型授業が実現!



■ 授業内容 遠足前の事前学習として実施

クイズ・パズル	園児にも理解しやすいよう模型を使ってゾウの大きさや手触りを体感しながら、生息環境や動物ごとの耳・鼻・足の爪の違いを学ぶ	90分
おえかき・発表・合唱	ゾウの絵を描いて発表したり、「ぞうさん」の童謡を合唱したりして、表現することで理解を深める	
まとめ	クイズでの知識確認のほか、描いた絵の発表を通して理解したことを共有	

関連する行事 動物園への親子遠足



「へえ、ゾウって爪先で立っているんだ。」などと理解した上ですごいと感じると、生きものを大切に思えるようになり、他者への『心のバリアフリー』につながるのではないのでしょうか。



ゾウのフンでできたハート型の紙を配っていただき、園児たちは大喜び。家で報告するきっかけになったようです。



動物園への親子遠足

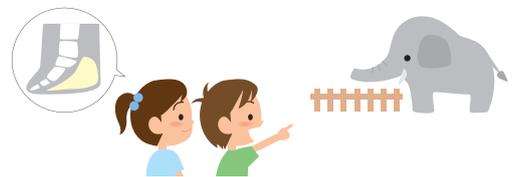
専門学校

- 生物多様性の保全について多くの人に考えてもらうきっかけづくりに寄与できた。
- 教える立場になって学生たちが成長した。
- 社会のニーズに応える職業人を育成する専門学校として重要な、学校や社会とつながる機会となった。



幼稚園

- 単に「動物かわいい」でなく、「この動物のここがこうなっているね」と興味・関心を持って遠足に参加する主体的・意欲的な園児の姿が見られた。
- 専門的な知識を楽しく学ぶ活動を、専門家や学生と一緒に作り上げることができた。



アドバイス ～さらに魅力的な授業～



専門学校

もう少し年齢が上がった時に、例えば絶滅危惧種のゾウを守るためにはどうしたらよいか、というような発展学習にもつなげられます。



4

ホテルを通して、身近な川への負荷の少ない生活を考える

ホテルを通して自然環境を学ぶ、市の環境学習施設 **岡崎市ホテル学校**
 (施設の環境学習を担当する職員は、フリーランスの環境教育専門家 (NPO) としても活躍中)

「水を学ぶ」という学校のニーズや学習状況にあわせ、ホテルの生息する水環境という切り口から授業を実施。身近な川を通して、理科や社会で習った「水」の知識と日々の生活をつなぐ一連の授業づくりが実現しました。



■ 授業実現までの流れ

行政

小学校

ホテルを通じて身近な自然環境への関心を高め、環境負荷の少ない生活への転換を促したい。

ニーズ

各教科で学んだ「水」の知識のつながりを理解できるように、生活排水の実験を行いたい。

Webサイトで出前授業や見学受入をPR

- 既存プログラムの組合せを提案
- 現地学習も紹介

出前授業の講師を依頼
 (環境学習コーディネーター (p.15参照) 経由)

現地学習の計画も追加

打合せ (目的の共有、ニーズの把握、学習状況や資料の確認)



先生と顔を合わせてじっくり話し合い、「自分たちが伝えたいこと」と「学校が伝えてほしいこと」の共通項を見つけました。



学校の中だけでは触れることのできない本物の教材を用意していただきました。
 打合せでお願いした内容も、当日、効果的に盛り込んでいただきました。

事前学習の実施



知識と
 実社会をつなぐ
 一連の授業が
 実現!



■ 授業内容 「総合的な学習」の授業として実施

出前	座学	スライドで、ホテルや市内の川の現状を学ぶ	45分
	ワークショップ	水が汚れる模擬実験で、人の生活が川に与える影響を考える	45分
	水質検査	メダカ水槽や身近な川の水質を検査し、ホテルの生息できる環境について考える	45分
現地	ホテルクイズ・調べ学習	クイズで知識を確認した後、施設内の展示で調べ学習を行い、ホテルの生息できる環境を探る	45分
	生きもの調査	川に入り、ホテルが生息できる川とできない川の環境の違いを学ぶ	50分
	まとめ	見つけた生きものがその場所で生息し続けるために、私たちに何ができるかを考える	

関連する
教科・単元等

- 3年理科「身近な自然の観察」
- 4年理科「自然の中の水」
- 4年社会「くらしを支える水」
- 5年理科「もののとけ方」、「水の中の小さな生物」



理科や社会で学んだ知識と、子どもの暮らしや社会・地域の現状を、関連したものとして捉えられるように授業の内容を工夫しています。



ポイント

人の生活が水の循環とどう関わっているかを発見できて、子どもたちの中でいろんな知識がつながりはじめ、授業への食いつきがよくなりました。



行政

- 地域の子どもたちに対して、水環境への負荷が少ない生活の大切さを伝えることができた。
- 要望に応えるために懸命に考えることで、よいチャレンジとなり、自分たちのできることが増えた。



小学校

- 子どもの知的好奇心が刺激された。
- 「私がメダカだったら、微生物のいる緑色の水で暮らしたい」、「みそ汁を流してしまったら、川の魚は苦しくなる」など、生きものの視点で実生活を見つめ直す深い学びが得られた。

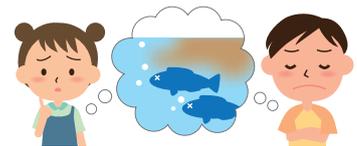


アドバイス ～さらに魅力的な授業へ～



行政

学校の目指す到達目標によって、自分が担当する部分のやり方も変わってくるので、関連する授業全体を踏まえたうえで、どの部分を依頼されているのかを聴き取るようにしています。また、やりすぎてしまったり、反対に十分でなかったりということにならないよう、前後の学習内容や他の教科の進捗状況も確認します。



5

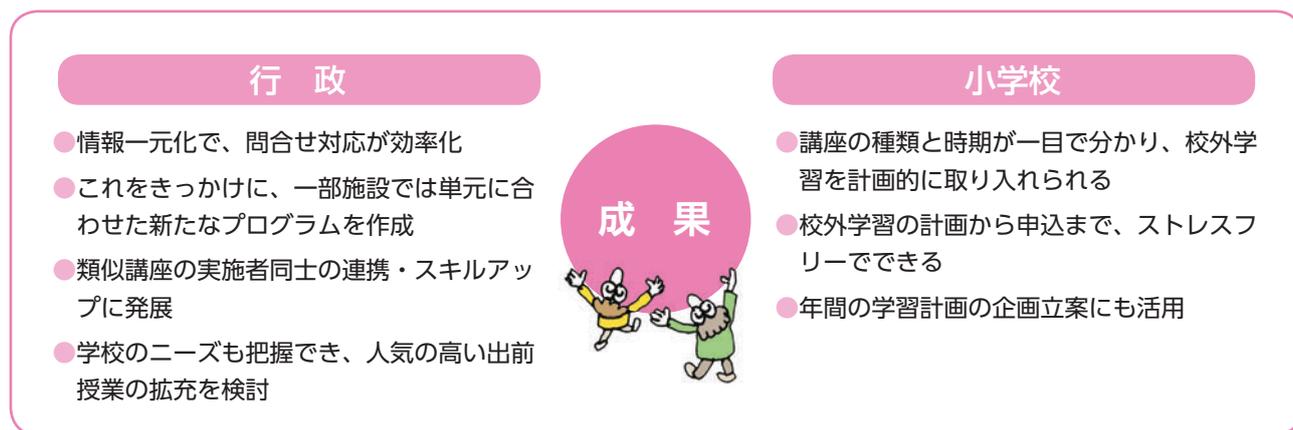
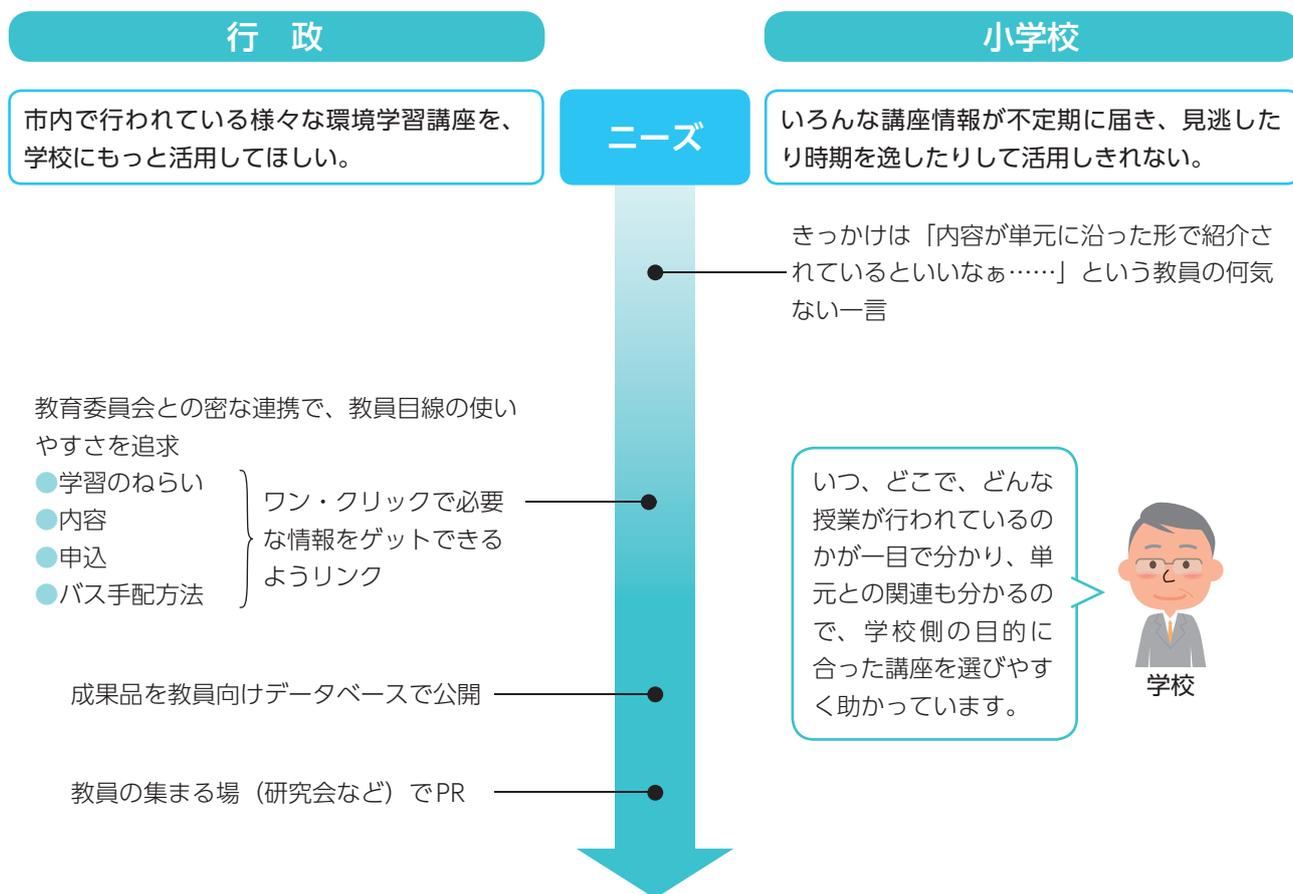
講座情報を時系列で整理・一元化して学習を支援

豊田市環境政策課

市内で行われている様々な“授業で使える環境学習講座”を、各教科の単元と関連させて一覧にまとめたカレンダーを作成。時系列で整理することで、学校が地域に目を向け、身近な施設を計画的・効果的に活用しやすくなりました。



■ 完成までの流れ



■ カレンダー内容（例）

環境学習プログラムカレンダー（3年生）【抜粋】

●：授業単元名 □：実施時期

教科	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	
理科	●自然のかんざつをしよう ●植物を育てよう ●こん虫をそだてよう		●動物のすみかを育てよう		
社会				●木を育てる仕事	
国語			●自然のかくし絵		
	各プログラム名は、「学習のねらい」や詳細内容等にリンク				
分野	プログラム名				プログラム実施主体
自然共生	生きものビンゴ	●			豊田市自然観察の森
	ガイドウォーク	●	●	●	
	水辺の生きもの観察		●	●	
	自然のかくし絵		●		
	トンボ、チョウの体の違い	●			
	動物のすみかをさがそう			●	
	市民参加生き物調査			●	豊田市環境政策課
	水生生物調査			●	
	とよた森林学校出前講座	●		●	豊田市森林課
	矢作川学校	●		●	豊田市矢作川研究所
	探検ビンゴ	●			豊田市総合野外センター
	自然観察	●		●	旭高原元気村
	小学校自然ふれあい体験学習	●		●	トヨタの森

【コラム】 理科・社会だけじゃない！ 講座テーマと教科・単元の関連例

環境教育は、理科や社会はもちろんのこと、右のような教科・単元とも関連しています。

関連する教科が見つからず困った時は、「総合的な学習の時間」なら柔軟な対応が可能です！ ただし、教科と異なり、取扱が学校毎に違うので確認が必要です。



小学校 低・中学年	道徳	自然愛・動植物愛護、生命尊重
	体育	雪遊び・水辺活動など
	音楽	自然を題材にした楽曲
	生活	まちたんけん
小学校 高学年	道徳	自然愛・環境保全、生命尊重
	家庭	調理の基礎、消費生活・環境配慮の工夫 衣服の着用と手入れ・快適な住まい方
中学校	道徳	自然愛護・自然への畏敬
	技術・家庭	栽培・飼育、生活や産業で利用される技術 衣生活・住生活の工夫
	保健体育	健康と環境

第2章 | 協働授業づくりに挑戦してみましょう

第1章で紹介した事例のような取組も、以下のステップに沿ってポイントを押さえていけば、スムーズに行えます。巻末のワークシートを活用して、協働授業づくりに一歩踏み出してみませんか。

STEP1 気づく

- 自らの事業・活動が環境にどう役立っているか
- 強みや長所を生かしてどんな授業ができるか

P.14

社内での合意形成にも役立ちます。自社の環境方針を参考にできます。



事業者

STEP2 出会う

- 教科書の内容と関連づけて、授業案の内容を発信してみる
(自社ウェブサイトなど)
- 環境学習コーディネーター (p.15) に相談してみる
- 学校との関係を構築し、依頼を受けやすい体制を整えておく

P.15

環境という教科はありません。どの教科でも環境教育を行なうことは可能です。教育課程が比較的柔軟な幼稚園・保育園や小学校向けに始めるのがおススメです。



教育関係者

STEP3 一緒に つくる

- 事前打合せ・調整をしっかり行い、学校のニーズを把握
- 目的を共有
- 次回のスキルアップに向け、ふり返りで改善点を把握

P.16

顔を合わせて打合せすることが重要です。学校教育の中でやることなので、学校が講師に期待することやニーズをしっかり伝えていかなければ、お互い不幸な結果になってしまいます。



学校

最初から完璧じゃなくても、まずはやってみて、伝えてみて、やりながら授業を改善していきました。



事業者

実施後に学校から授業への意見・感想をいただくことで、その後のプログラムの改善にも役立ちます。打合せで意見を言いやすい雰囲気をつくっておくと、本音が聴きやすいです。



NPO



STEP
1

気づく ～自らの事業・活動の社会的意義や強みを再認識～

自らの事業・活動について、強みや長所は何か、社会や地域においてどのような役割を果たしているかをしっかりと把握しておくことは、学校の授業に参加しやすくなったり、授業の質が高まったりすることにつながる大切な過程です。

以下の記入例を参考に、実際に巻末 (p.17) ワークシート1へ書き込んでみましょう。

ワークシート1 ～自らの事業・活動の強みに気づく～

授業企画の準備用

事業者記入例

① 事業・活動内容 (環境に関わりのあるもの)	小売業で、環境にやさしい商品の取り扱いをしている
② ①のうち、環境に役立っていること	環境にやさしい商品の販売を積極的に進めている
③ ②は社会においてどんな意義があるか	消費者が環境負荷の少ない商品を選ぶことで、生産者・製造者の行動を変えていくことができる
④ ②を進める上で障壁となっていること	価格だけで商品を選ぶ人が多い
⑤ ④の解決に向け、期待すること	多くの人に、買物の時、環境にやさしい商品を選んでもらいたい
⑥ ⑤を進めるために、自分たちが工夫していること	商品の材料や作り方によって環境に与える影響が違い、環境ラベルなどの表示を商品選びの参考にできることをアピールしている
⑦ ⑥を生かして、どんな授業ができるか	買物ゲームを通し、環境負荷の少ない製品の選択を促す

NPO 記入例

① 事業・活動内容 (環境に関わりのあるもの)	開発の進んでいる地域に残された里山の保全活動
② ①のうち、環境に役立っていること	間伐など里山の手入れをして、生きものにも人にも心地よい森をつくらせている
③ ②は社会においてどんな意義があるか	里山の地面に日光が届くことで、いろんな動植物が育ち、保水力も高まる。しみ込んだ雨が浄化されることで、川や海もきれいになる
④ ②を進める上で障壁となっていること	若い会員が少なく、間伐などの重労働が負担になっている。里山にポイ捨てや不法投棄もされる
⑤ ④の解決に向け、期待すること	多くの人に、里山を大切なものとして捉え、それを守るためにできることを考えてほしい
⑥ ⑤を進めるために、自分たちが工夫していること	自然観察会を開き、里山の素晴らしさを感じてもらっている
⑦ ⑥を生かして、どんな授業ができるか	里山にいる生きものと間伐などの手入れとの関係から、人間と里山の関わり合いに気づいてもらう

STEP
2

出会う ～自分たちのできることを発信～

強みを生かした授業ができることを、いろんな方法で発信してみましょう。

●単元と関連づけ

自分たちの活動と教科書の内容を関連づけることで、どの学年に合いそうかが分かるほか、学校の関心もグッと引きつけることができます。

①教科書情報の入手

まずは、地域で使われている教科書を検索サイトで調べましょう。

学校教育情報検索サイト Gaccom <http://www.gaccom.jp/>

②授業内容に合った学年・単元名を見つける

どこの教科書が分かったら、各出版社のWebサイトから、何年生で何を習うかが分かります。

(例)「森林学習」なら、例えば小3理科「自然の観察をしよう」、「植物を育てよう」、小3社会「木を育てる仕事」がぴったり！



Gaccom ウェブサイト

●作成した授業概要を自社ウェブサイトなどでPR

インターネットなどで調べてから電話をかけるので、授業の概要が示されていると助かります。

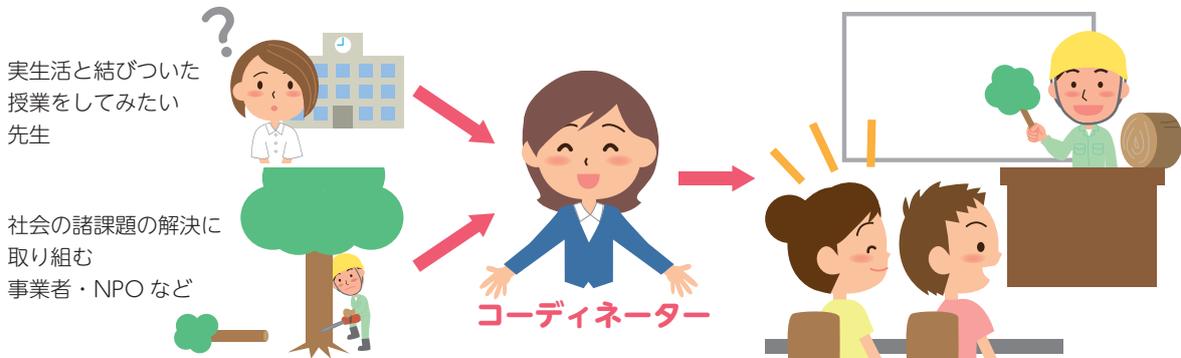


学校

●あいち環境学習プラザの「環境学習コーディネーター」に相談

コーディネーターとは

愛知県では、学校と環境教育を提供できる方の橋渡し役を担うコーディネーターが、講師、教材、場所、施設などの紹介や調整を行っています。まずはお電話でお気軽にご相談ください。



連絡先 あいち環境学習プラザ 名古屋市中区三の丸三丁目2番1号 Tel.052-972-9011
<http://www.pref.aichi.jp/soshiki/kankyokatsudo/0000060443.html>

●日頃から近隣の学校の活動に参加して関係を構築しておくなど、学校からの依頼を受けやすい体制づくり

●市町村教育委員会へ出前授業の内容を紹介

年度初めに相談していただくと、年間計画に入れやすいです。



学校



STEP
3

一緒につくる ～事前打合せで目的を共有し、効果的な授業を実施～

顔を合わせて打合せをすることから、学校との協働授業づくりがスタートします。さあ、学校と一緒に、子どもたちの心に残る授業をつくっていきましょう。

●顔を合わせて打合せ

原案としてワークシート2を準備しておく、学校との打合せが効率的に進められます。

ワークシート2 ～効果的な授業を行う～

学校との打合せ用

事業者記入例

①目的

体験を通して、環境に配慮した消費の仕方を考える

②授業内容

時間配分(目安)	活動・学習の概要	活動・学習の具体的内容
10分	買物ゲーム	グループ毎にカレーの材料を選ぶ
20分	班別活動	選んだ材料の量や包装を調べる
15分	振り返り	他の班の発表を聞き、気づいたことを記録する
計 45分		

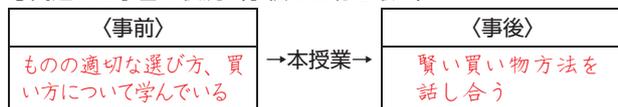
③教科書の内容との関連

学年	教科	主な内容
小学 5・6年	家庭	物やお金の使い方と買物環境に配慮した生活の工夫

④準備物等

模擬商品、キッチンスケール、電卓、ワークシート

⑤関連する学習の状況(学校から聴き取り)



NPO 記入例

①目的

里山の生態系の多様性や相互の関わり合いに気づく

②授業内容

時間配分(目安)	活動・学習の概要	活動・学習の具体的内容
5分	ガイダンス	危険回避のための基礎知識を学ぶ
25分	つながり さがし	落ち葉や木の実など自然物を採集し、つながりを考える(班)
20分	振り返り	里山の価値や人間との関わりについて考える
計 45分		

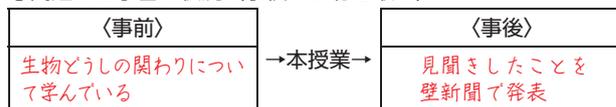
③教科書の内容との関連

学年	教科	主な内容
小学6年	理科	生物のくらしと環境
小学5年	社会	森林資源の働き
小学5年	道徳	自然愛

④準備物等

動きやすい服装(長袖・長ズボン)、かっぱ、帽子、ビニール袋

⑤関連する学習の状況(学校から聴き取り)



その他、人数・班分けや座席配置、安全面での注意点、双方の役割を確認・共有しておきましょう。

フィールドを熟知する会員が、安全管理を徹底しています。



NPO

●当日の資料

以下の観点から事前に学校に確認してもらいましょう。

- 子どもが理解できる内容か 何を強調すべきか 用語・ふりがなは適切か

●授業当日

子どもたちが安心できる雰囲気づくりを意識しましょう。楽しいと記憶に残りやすいです。

体験や実験は、失敗して子どもががっかりしないよう、しっかり準備やフォローできる体制で臨みます。



事業者

●振り返り

次に生かすため、自分たちで振り返るのはもちろんのこと、学校からも意見や感想をもらえるよう、積極的に働きかけましょう。

① 事業・活動内容（環境に関わりのあるもの）
② ①のうち、環境に役立っていること
③ ②は社会においてどんな意義があるか
④ ②を進める上で障壁となっていること
⑤ ④の解決に向け、期待すること
⑥ ⑤を進めるために、自分たちが工夫していること（強み）
⑦ ⑥を生かして、どんな授業ができるか

下記のような内容をあらかじめ整理しておく、打合せに時に役立ちます。

ワークシート2 ～ 効果的な授業を行う ～

学校との打合せ用

①目的

--

②授業内容

時間配分 (目安)	活動・学習の概要	活動・学習の具体的内容
計	分	

③教科書の内容との関連

学 年	教 科	主 な 内 容

④準備物等

--

⑤関連する学習の状況 (学校から聴き取り)

〈事 前〉	→本授業→	〈事 後〉

〈フィードバックのお願い〉

授業のよかった点、改善点、その他感想、お気づきの点をぜひお知らせください。

【連絡先】

団 体 名		担 当	
連 絡 先	☎ ()	-	
Eメール			

コピーしてご活用ください。ダウンロードもできます。 [あいち協働授業づくり](#) [検索](#)



平成 29 年 3 月発行

愛知県（環境部環境活動推進課）

〒 460-8501 名古屋市中区三の丸三丁目 1 番 2 号

TEL : 052-954-6208 FAX : 052-954-6914

ホームページ : <http://www.pref.aichi.jp/kankyo/>

UD
FONT

VEGETABLE
OIL INK

FSC
www.fsc.org

ミックス
責任ある木質資源を
使用した紙
FSC® C011530